

**[成果情報名] 11月上旬開花の赤色秋小ギク有望系統「長崎小ギク2号」**

**[要約]** 秋小ギクの有望系統「長崎小ギク2号」は、11月上旬までに出荷できる花色が赤色の小ギクである。無効側枝の発生が少なく、側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束加工がしやすい形状である。

**[キーワード]** 秋小ギク、赤色、フラワーフォーメーション

**[担当]** 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

**[代表連絡先]** 電話（代表）0957-26-3330（直通）0957-26-4326

**[区分]** 花き

**[分類]** 指導

**[作成年度]** 2014年度

---

**[背景・ねらい]**

燃油や資材等生産コストの上昇により施設花きが厳しい状況にある中、本県では、近年、露地栽培による低コスト生産が可能な小ギクが注目されている。小ギクは家庭用仏花として盆や彼岸、年末を中心に年間を通じて堅調な需要がある。本県でも多くの品種が導入されているが、本県の気候や作型にあった品種が少ない、出荷調整に手間がかかる等の問題がある。このため、栽培特性や品質、草姿に優れ、本県の気候や作型に適合した本県オリジナルの小ギク品種を作型別（7～12月出荷）、色別（白・赤・黄の3色）で育成することとし、ここでは、11月前半出荷用赤色系統の選抜を行う。

**[成果の内容・特徴]**

1. 秋小ギクの有望系統「長崎小ギク2号」は、長崎県農林技術開発センターの試験圃場において、当センター保有の赤色秋小ギク選抜系統同士の交配により得られた実生の中から2011年度に選抜した系統である。
2. 花色は赤色（RHSカラーチャート RED-PURPLE GROUP 61-A）であり、管状花が開き始めるまでは緑芯である（図1）。
3. 自然日長下において、6月下旬に定植し、摘心、整枝（3本/株）を行い栽培すると、当センターでは11月上旬までに開花する（表1）。
4. 秋小ギクの赤色品種である「みなみ」と比較すると、無効側枝の発生が少なく、出荷調整がしやすい（表1）。
5. フラワーフォーメーションは2、側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束に加工する際、処理しやすい形状である（表1・図2・図3）。
6. 県切り花標準出荷規格において、最上位規格は切り花長80cm、調整重50gであるが、「長崎小ギク2号」は、切り花長117～128cm、80cm調整重45～55gである（表1）。
7. 花芽分化期以降の当センター旬別平均気温について、花芽分化期である8月中下旬頃、2013年度は平年値より高めに、2014年度は低めに推移したが、開花日の変動幅は8日である（表1・表2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 品種登録出願を検討するため、2015年度も、県内の生産者圃場において試作を行う。
2. 2013年度と2014年度、対照品種「みなみ」では2日の開花日の変動が見られる。
3. 本系統と同時期に開花する白色、黄色の有望系統も選抜中である。

[具体的データ]

表1. 赤色秋小ギク有望系統「長崎小ギク2号」の開花特性

系統・ 品種名	試験 年度	試験 場所	開花日	切り	切り	頂花	有効	無効	80cm調整	花蕾 数	花径 (mm)	茎径 (mm)	FF	80cm 調整重 (g)
				花長 (cm)	花重 (g)	節数 (節)	側枝 数 (本)	側枝 数 (本)	後無効 側枝数 (本)					
長崎 小ギク 2号	2012	農技セ	11月4日	122	100	-	8.0	2.0	-	29	43	4.9	2.0	-
	2013	農技セ	11月7日	117	107	-	11.5	7.3	3.7	31	39	5.6	2.0	55
	2014	農技セ	10月30日	128	112	60	9.8	4.0	2.0	26	31	5.4	2.0	45
	2014	長崎市	10月23日	119	84	55	10.3	2.2	2.0	28	33	5.2	2.0	52
みなみ (対照)	2013	農技セ	10月25日	108	151	-	15.3	19.0	-	46	31	5.5	2.0	58
(対照)	2014	農技セ	10月23日	109	99	59	15.7	9.5	6.8	39	32	4.4	2.0	35

注1) 2012年度は1本を調査 他は平均的な6本の調査による平均値 -は調査省略

注2) 有効側枝は切り花の先端から下30cmのところまでに発生した花蕾が付いた側枝 その下に発生した花蕾が付いた側枝が無効側枝

注3) 花蕾数は開花輪数と直径5mm以上の蕾数 花径は開花した頂花で測定 茎径は最下位の有効側枝の直下で測定

注4) FFはフラワーフォーメーション(図3参照)

注5) 80cm調整重は切り花を長さ80cmに調整し有効側枝以外と下葉(20cm)を除去して測定

注6) 試験場所の農技セは木柱平張施設 長崎市は小ギク生産者露地圃場(標高約300m)



図1. 「長崎小ギク2号」の開花の状況

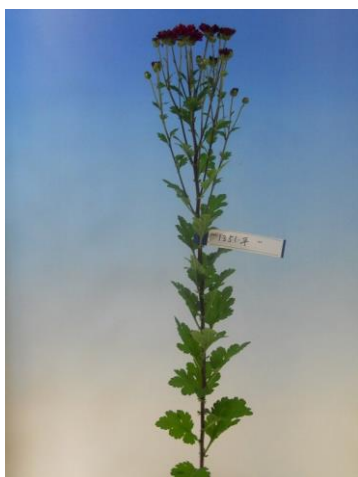


図2. 「長崎小ギク2号」の草姿

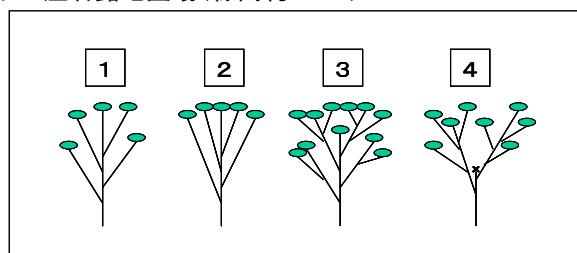


図3. 小ギクのフラワーフォーメーション

表2. 花芽分化期以降の旬別平均気温及び平年比 (°C)

年度		8月		9月		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
2012	気温	28.4	27.7	26.2	24.0	20.6
	平年比	0.6	0.8	0.4	▲0.2	▲1.7
2013	気温	30.9	27.6	23.7	25.8	24.4
	平年比	3.1	0.7	▲2.1	1.6	2.1
2014	気温	26.1	25.4	25.2	22.7	22.6
	平年比	▲1.7	▲1.5	▲0.6	▲1.5	0.3
平年		27.8	26.9	25.8	24.2	22.3

年度		10月			11月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
2012	気温	19.6	17.6	15.9	12.7	11.7
	平年比	▲0.7	▲1.1	▲0.2	▲1.8	▲0.8
2013	気温	24.1	19.4	16.6	15.8	10.5
	平年比	3.8	0.7	0.5	1.3	▲2.0
2014	気温	21.2	18.2	17.7	14.6	10.8
	平年比	0.8	▲0.5	1.6	0.1	▲1.7
平年		20.3	18.7	16.1	14.5	12.5

注1) 長崎県農林技術開発センター

※耕種概要(農林技術開発センター)

栽培場所: 木柱平張ハウス(1mm目防虫ネット被覆)

施肥: 元肥のみ N15,P2O513,K2O13 kg/10a

定植間隔: 10×10cmの6目ネット2条植え

整枝: 3本/株

管理日程:

年度	挿し芽	定植	摘心	整枝
2012	6月12日	6月29日	7月10日	7月27日
2013	6月12日	6月27日	7月10日	7月22日
2014	6月4日	6月25日	7月2日	7月24日

[その他]

研究課題名: 長崎県オリジナル秋小ギク

品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 2011年度~2015年度

研究担当者: 竹邊丞市